

令和7年度

大隅西小学校 運営に関する計画



〈最終評価〉

令和8年3月

大阪市立大隅西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

本校は「全ての子どもの学びを保障し、生きる力を育む ～ひとりもひとりにしない学び合い～」教育目標とし、「主体的・対話的で深い学び (=学び合い) のある授業づくり」「インクルーシブ教育の研究と推進」「働き方改革の推進 ～いつも子どもが中心に～」を三大方針として、子どもが自ら学ぶ教育の推進に全教職員で取り組んできた。児童は落ち着いて学習に取り組んでおり、基本的な学習習慣が身につけてきている。家庭・地域は学校教育に協力的で、児童が安全に安心して登校できるよう、毎朝の登校時の見守り活動などでも多くの地域の方々が協力してくださっている。

ここ数年、児童数が少しずつ減少してきており、令和7年度は各学年1学級ずつ、特別支援学級5学級の計11学級となった。そのため、今年度「チーム担任制」を設け、各学年の子どもたちを学級担任1人だけで指導するのではなく、低学年担当・中学年担当・高学年担当・特別支援担当の教員がそれぞれチームとなり、担任および担当教員が複数名体制で子どもたちに関わる体制を取っている。常に複数名の教員が子どもたちと関わることで、これまで以上にきめ細かい支援ができるようにしていく。特別支援担当教員も特別支援としてのチームだけでなく、各学年担当教員とも連携を密にして、子どもたちの支援にあたっている。

(1) 児童数と学級数 (特別支援学級を含む)

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
児童数	307	294	286	257	237	233	204	200	163
学級数	16	15	15	14	12	12	12	12	11

(2) 学校選択制実施状況

年度	通学区域 内就学予 定者数A	他校区への 転出による 減B	他校区から の転入によ る増C	増減 $D = B + C$	転出者の割 合 $E = B \div A$	増減の割合 $F = D \div A$
H30	31	-2	1	-1	-6.5	-3.2
R1	45	-2	3	1	-4.4	2.2
R2	30	-3	3	0	-10	0
R3	38	-8	6	-2	-21.1	-5.3
R4	35	-14	1	-13	-40	-37.1
R5	22	-7	10	3	-31	13
R6	21	-7	5	-2	-33	-9
R7	23	-9	11	-2	-39	-8

(3) 大阪市小学校学力経年調査より

令和3年度 4教科合計	3年生	4年生	5年生	6年生
大阪市平均正答率の合計	269.8	270.3	338.7	359.0
校内平均正答率の合計	253.7	256.3	350.7	348.7
標準化得点	97.9	98.1	101.4	98.8
令和4年度 4教科合計	3年生	4年生	5年生	6年生
大阪市平均正答率の合計	275.9	265.3	343.7	349.5
校内平均正答率の合計	281.2	276.9	315.4	364.7
標準化得点	100.7	101.6	98.6	101.9
令和5年度 4教科合計	3年生	4年生	5年生	6年生
大阪市平均正答率の合計	255.3	258.4	339.0	344.2
校内平均正答率の合計	244.3	289.9	342.1	291.0
標準化得点	98.6	104.2	100.4	93.6
令和6年度 4教科合計	3年生	4年生	5年生	6年生
大阪市平均正答率の合計	260.4	259.9	349.2	330.1
校内平均正答率の合計	289.5	256.1	331.4	284.4
標準化得点	103.7	99.5	97.9	94.7
令和7年度 4教科合計	3年生	4年生	5年生	6年生
大阪市平均正答率の合計	271.7	266.4	347.9	354.8
校内平均正答率の合計	251.2	284.2	307.9	335.6
標準化得点	97.5	102.3	95.3	97.7

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における質問項目「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。(R 5 ; 79.7% R 6 ; 79.5% R 7 ; 80.5%)
- ② 令和3年度と比較し、不登校児童の在籍比率を1%以下にする。(R 7 ; 1.8%)
- ③ 令和3年度と比較し、不登校児童の改善の割合を90%以上にする。(R 7 ; 50%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における質問項目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度より10ポイント向上させる。
(R 3 ; 25.0% R 4 ; 34.6% R 5 ; 44.4% R 6 ; 36.4% R 7 ; 31.6%)
- ② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より10ポイント向上させる。

国語	3年	4年	5年	6年	算数	3年	4年	5年	6年
R 3	98.8	98.5	102.8	101.1	R 3	98.4	96.6	101.2	101.2
R 4	98.8	102.2	98.5	101.1	R 4	100.9	103.6	83.0	104.8
R 5	100.3	104.4	100.5	97.2	R 5	98.6	101.6	100.8	92.9
R 6	104.1	98.7	98.9	97.7	R 6	103.7	99.8	96.2	96.3
R 7	98.3	102.2	95.7	97.9	R 7	101.9	102.7	95.5	99.1

- ① 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度より10ポイント向上させる。

英語	
R 3	66.3
R 4	73.2
R 5	63.2
R 6	54.9
R 7	67.9

- ④ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を令和3年度より10ポイント向上させる。

運動	
R 3	—
R 4	72.5
R 5	68.7
R 6	63.2
R 7	71.2

【学びを支える教育環境の充実】

- ① ICTの活用に関する目標を設定し、100%の達成をめざす。
- ② デジタル教材を活用した学習を週1回実施する。
- ③ 学習者用端末を活用した家庭学習を年1回実施する。
- ④ 協働学習支援ツールを用いた学習を学期に1回実施する。
- ⑤ 教職員の働き方改革に関する目標を設定し、100%の達成をめざす。
- ⑥ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を30%以上にする。
- ⑦ ゆとりの日を週に1回設定・実施する。
- ⑧ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を30%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標 (小・中学校)

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。(R 4 ; 70.6% R 5 ; 79.7% R 6 ; 79.5% R 7 ; 80.5%)
- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R 6 ; 2.46% R 7 ; 1.8%)
- ③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(R 5 ; 100% R 6 ; 該当なし R 7 ; 50%)

学校の年度目標

- ① 小学校学力経年調査および校内アンケートにおける「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。(R 4 ; 88.4% R 5 ; 84.6% R 6 ; 74.0% R 7 ; 82.7%)
- ② 小学校学力経年調査および校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。(R 4 ; 91.6% R 5 ; 95.1% R 6 ; 87.0% R 7 ; 87.1%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標 (小・中学校)

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。(R 3 ; 25.0% R 4 ; 34.6% R 5 ; 44.4% R 6 ; 36.4% R 7 ; 31.6%)
- ② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を74%以上にする。(R 4 ; 73.2% R 5 ; 63.2% R 6 ; 54.9% R 7 ; 67.9%)
- ④ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。(R 4 ; 72.5% R 5 ; 68.7% R 6 ; 63.2% R 7 ; 71.2%)
- ⑤ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。(R 4 ; 82.5% R 5 ; 71.7% R 6 ; 68.1% R 7 ; 71.8%)

学校の年度目標

- ① 小学校学力経年調査における国語および算数の正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。

7割未満	3年	4年	5年	6年	
R 3	21.3	20.7	6.7	15.8	4教科
R 4	17.4	10.4	10.3	4.5	4教科
R 5	24.2	8.42	19.3	28.4	4教科
R 6	5.7	12.9	29.5	37	4教科
R 7	27.3	8.8	38.4	20	4教科

- ② 小学校学力経年調査における国・算の正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も0.5ポイント増加させる。

2割以上	3年	4年	5年	6年	
R 3	23.4	13.6	26.7	18.4	4教科
R 4	26.1	31.3	10.3	25.0	4教科
R 5	30.3	43.5	29.4	3.4	4教科
R 6	45.7	29.0	31.4	21.7	4教科
R 7	27.3	32.4	22.6	25.0	4教科

- ③ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を85%以上にする。

(R 4 ; 84.3% R 5 ; 85.7% R 6 ; 83.0% R 7 ; 85.6%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標 (小・中学校)

- ① ICTの活用に関する目標を設定する。
- ② デジタル教材を活用した学習を週1回実施する。
- ③ 学習者用端末を活用した家庭学習を年に1回程度実施する。
- ④ 協働学習支援ツールを用いた学習を学期に1回程度実施する。
- ⑤ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
- ⑥ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を20%以上にする。
- ⑦ ゆとりの日を週に1回設定・実施する。
- ⑧ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を20%以上にする。
- ⑨ 児童の8割以上が、学習者端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超えるようにする。

学校の年度目標

- ① ICTを活用した授業を週に3回以上行う。
- ② 始業式、終業式の実施日の弾力的運用を行う。

3 本年度の自己評価結果の総括

学校運営の中期目標および本年度の総括について

「全ての子どもの学びを保障し、生きる力を育む」を教育目標として目標および指導計画を立て、子どもが自ら学ぶ教育の推進に全教職員で取り組んできた。今年度も児童は落ち着いて学習に取り組むことができ、基本的な学習習慣が定着してきている。家庭・地域が学校教育に協力的であることは、本校にとって大きな強みであり、児童は安全に安心して登校することができた。

今年度より「チーム担任制」を設け、各学年の子どもたちを学級担任1人だけでなく、低学年担当・中学年担当・高学年担当・特別支援担当の教員がそれぞれチームとなり、担任および担当教員が複数名体制で子どもたちに関わる体制を取って、きめ細かく学習指導や生活指導にあたってきた。チーム内での一部教科担任制を取り、また生活指導面における指導ではトラブルの小さいうちからていねいに指導にあたるなど、チーム担任制としての強みを生かした指導を進めることができた。各学年が単学級であることで、特に学習指導において、授業の進捗状況の管理や指導技術の向上という面について、経験の浅い若手教員を中心に不安を感じる教員もいたが、年間を通して「学力向上支援チーム事業」を活用した研修や校内研修、メンター研修、相互授業参観などの機会をもち、教員が互いに学びあい、指導力の向上につなげるようにした。

「大阪市教育振興基本計画」が改訂され、次年度より施行される。本校においても、校訓「考える 助け合う きたえる」のもと、これまで推進してきた取組や研究の成果をさらに発展させ、3つの最重要目標「安全・安心な教育の推進」「未来を切り拓く学力・体力の向上」「学びを支える教育環境の充実」の実現に向けた取組を進め、全ての子どもが安心して学べる教育を実践していく。

中期目標についての総括

【安全・安心な教育の推進】について

①小学校学力経年調査における質問項目「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は80.5%で、95%以上を達成することはできなかった。令和4年度調査（令和3年度は調査項目なし）では70.6%、令和5年度79.7%、令和6年度79.5%と、向上してきており、「どちらかといえば思う」を含む肯定的な回答を含めると95.6%と高い水準であるため、引き続き「どんなことがあってもいけない」と全ての児童が自信をもって言えるよう、これからも子ども1人ひとりのもつ背景や社会性を見極めながら、他者を尊重し思いやる心の育成に努めていきたい。

②③不登校児童の在籍比率については、令和3年度は1.26%であったのに対し、令和7年度は1.8%と、1%以下には届かなかった。しかし、改善傾向にある児童もおり、令和6年度と比較した不登校児童の改善の割合は50%と、全児童数が減少している中での割合の改善は、児童が安全に安心して学習に取り組める学校づくりを進めてきた成果であると言える。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】について

①小学校学力経年調査における質問項目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、令和3年度調査では25.0%であったのに対し令和7年度は31.6%と、10ポイント向上には届かなかったものの6ポイント以上の向上が見られた。

②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較したところ、令和3年度より10ポイント向上した学年はなく目標を達成することはできなかったが、平均正答率の対全国比において100を超える学年もあ

り、基礎学力が定着しつつある状況である。

③小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、令和3年度調査では66.3%であったのに対し令和7年度は67.9%と、10ポイント向上には届かなかったもののやや向上した。

④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、令和4年度（令和3年度は調査項目なし）では72.5%であったのに対し令和7年度は71.2%と、向上させることはできなかったが、令和5年度68.7%、令和6年度63.2と減少傾向にあった数値が回復しており、楽しみながら体を動かす活動に全校児童で取り組んだ成果であったと思われる。

【学びを支える教育環境の充実】について

①②③④ICTの活用に関する目標として、令和5～7年度において「ICTの活用した授業を週3回以上実施」と設定し、どの学年についても授業において日常的に活用することができており、デジタル教材を活用した学習や協働学習支援ツールを用いた学習についても、発達段階に応じた取組を推進することができた。学習者用端末を活用した家庭学習についても、特に中学年・高学年において、長期休業期間を中心に実施することができている。

⑤⑥教職員の働き方改革に関する目標として、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を20%以上にすることと設定したが、1月末時点において74%の教職員が取得できており、目標を達成することができている。

⑦ゆとりの日については、年間を通じて週に1回以上設定し、目標を達成することができた。

⑧教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合は、1月末時点において65%で、目標を達成することができている。

大阪市立大隅西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。 (R4; 70.6% R5; 79.7% R6; 79.5% R7; 80.5%)</p> <p>② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 小学校学力経年調査および校内アンケートにおける「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。 (R4; 88.4% R5; 84.6% R6; 74.0% R7; 82.7%)</p> <p>② 小学校学力経年調査および校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。 (R4; 91.6% R5; 95.1% R6; 87.0% R7; 87.1%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめや問題行動の未然防止に努め、いじめの早期発見に取り組む。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <p>① いじめ防止アンケートを年3回実施し、いじめを認知した場合はすぐに対応し解消する。</p> <p>② 月に1回、児童情報連絡会を実施し、全教職員で共有するとともに問題行動の未然防止およびいじめの早期発見につなげる。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「きまりを守ろう週間」を実施し、きまりが何のためにあるのかや、きまりを守ることの大切さについて考え行動できるようにする。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <p>① 「きまりを守ろう週間」を年に2回以上実施する。</p> <p>② 校内アンケートにおける「きまりを守っていますか」の項目において肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。</p>	B

<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 登下校時の指導や児童会でのあいさつ運動を実施し、あいさつをすることの大切さについて考え、場に応じたあいさつができるように取り組む。</p>	C
<p>指標 ① 「あいさつ運動」年に2回以上実施する。 ② 「あいさつがんばりカード」の全校達成率を85%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①】 いじめ防止アンケートは、年3回実施することができた。また、認知したのに関し、当該児童に聞き取りを行ったり、対応したりすることができた。また、月に1回児童情報連絡会を実施し、全教職員で児童の問題行動の情報共有やいじめの早期発見について話し合うことができた。さらに、以前取り上げられた児童の様子について継続して情報共有することで、問題行動の再発防止に努めることができた。</p> <p>【取組内容②】 6月92.3%、11月91.5%、2月89%となり計3回の実施ができた。また、実施した3回の平均が90.9%であり、目標を達成することができている。特に、低学年は6月よりも達成できたと回答する児童が増加していることから、ポスターなどの啓発活動や代表委員会の校内巡回などの効果があったと考えられる。ただ、学校全体で目標を達成できている一方で、学年別によると、平均が84.4%や84.7%と目標を達成できていない学年や、11月71%、2月63.8%と大きく目標を下回る月や学年もあった。</p> <p>【取組内容③】 年3回のアンケート結果から、肯定的な回答は82%となり、目標に達しなかった。内訳としては、①82.5% ②82.8%、③80.6%という結果になり、学年によって達成状況にばらつきが見られた。また、今年度は「あいさつがんばりカード」の形式を変更し、児童自らが目標を設定する取組とした。また、目標を考えることが難しい児童や、声に出してあいさつをすることに抵抗がある児童に対しては、「目を見る」「おじぎをする」など、具体的な行動目標を示すことで、それぞれの実態に応じた取組が可能となった。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【取組内容①】 児童アンケートにおいて「いじめはいかなる理由があってもいけない」という問いに対し、「そう思わない・思わない」と回答している児童が若干名いるため、そう回答した理由や背景について聞き取っていく必要がある。また、児童情報連絡会は定期的の実施できているものの、取り上げられる内容が重大な事案に偏り、いじめの早期発見に十分結びついていない状況である。このため、重大事案に加え、児童の日常に見られる違和感や小さな変化についても共有できる時間を設け、全教職員が継続的に情報共有を行える体制を整えていきたい。</p> <p>【取組内容②】 11月、2月の結果からみて、達成率が低い学年があったことから、実施時期や活動内容の見直しを検討する必要があると考えられる。また、平日頃からの学級指導、声掛けなど指導者から児童への働きかけをさらに積極的に行う必要があるとともに、「きまりを守ろうカード」など児童が自己評価を行う項目の見直しを行い、意識を高めることにつなげていきたいと考える。</p>	

【取組内容③】

今後も引き続き「あいさつ週間」の取組を進めていく。あいさつをする大切さや、なぜあいさつをする必要があるのかについて日常的に声掛けを進めていく必要がある。あいさつをしなかった時、あいさつが返ってこなかった場合を想定させ、それぞれの立場でどのような気持ちになるのかを考えさせる機会にしていく。あいさつ運動の期間に限らず、日頃からあいさつを大切にする児童になってもらいたい。また、「あいさつがんばりカード」の形式を検討していく。カードを家庭に持ち帰り、保護者から一言記入してもらう欄を設けるなど、学校と家庭が協力をしていく取組にしていきたい。

大阪市立大隅西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標		達成状況																																			
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標 (小・中学校)		C																																			
① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。																																					
<table border="1"> <tr><th colspan="2">全国学テ 6年</th></tr> <tr><td>R 3</td><td>32.4</td></tr> <tr><td>R 4</td><td>24.0</td></tr> <tr><td>R 5</td><td>44.8</td></tr> <tr><td>R 6</td><td>25.5</td></tr> <tr><td>R 7</td><td>52.0</td></tr> </table>	全国学テ 6年		R 3	32.4	R 4	24.0	R 5	44.8	R 6	25.5	R 7	52.0	<table border="1"> <tr><th colspan="2">経年調査 3~6年</th></tr> <tr><td>R 3</td><td>32.4</td></tr> <tr><td>R 4</td><td>34.6</td></tr> <tr><td>R 5</td><td>44.4</td></tr> <tr><td>R 6</td><td>36.4</td></tr> <tr><td>R 7</td><td>31.6</td></tr> </table>	経年調査 3~6年		R 3	32.4	R 4	34.6	R 5	44.4	R 6	36.4	R 7	31.6												
全国学テ 6年																																					
R 3	32.4																																				
R 4	24.0																																				
R 5	44.8																																				
R 6	25.5																																				
R 7	52.0																																				
経年調査 3~6年																																					
R 3	32.4																																				
R 4	34.6																																				
R 5	44.4																																				
R 6	36.4																																				
R 7	31.6																																				
② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。																																					
<table border="1"> <tr><th>国語</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th></tr> <tr><td></td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr> </table>	国語	3年	4年	5年	6年		×	×	×	×	<table border="1"> <tr><th>算数</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th></tr> <tr><td></td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr> </table>	算数	3年	4年	5年	6年		×	×	×	×																
国語	3年	4年	5年	6年																																	
	×	×	×	×																																	
算数	3年	4年	5年	6年																																	
	×	×	×	×																																	
③ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を74%以上にする。 (R 4 ; 73.2% R 5 ; 63.2% R 6 ; 54.9% R 7 ; 67.9%)																																					
④ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。 (R 4 ; 74.3% R 5 ; 85.7% R 6 ; 83.0% R 7 ; 71.2%)																																					
⑤ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。 (R 4 ; 82.5% R 5 ; 71.7% R 6 ; 68.1% R ; 71.8%)																																					
学校の年度目標																																					
① 小学校学力経年調査における国・算の正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。																																					
<table border="1"> <tr><th>7割未満</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th></th></tr> <tr><td>R 3</td><td>21.3</td><td>20.7</td><td>6.7</td><td>15.8</td><td>4教科</td></tr> <tr><td>R 4</td><td>17.4</td><td>10.4</td><td>10.3</td><td>4.5</td><td>4教科</td></tr> <tr><td>R 5</td><td>24.2</td><td>8.42</td><td>19.3</td><td>28.4</td><td>4教科</td></tr> <tr><td>R 6</td><td>5.7</td><td>12.9</td><td>29.5</td><td>37</td><td>4教科</td></tr> <tr><td>R 7</td><td>27.3</td><td>8.8</td><td>38.4</td><td>20</td><td>4教科</td></tr> </table>	7割未満	3年	4年	5年	6年		R 3	21.3	20.7	6.7	15.8	4教科	R 4	17.4	10.4	10.3	4.5	4教科	R 5	24.2	8.42	19.3	28.4	4教科	R 6	5.7	12.9	29.5	37	4教科	R 7	27.3	8.8	38.4	20	4教科	
7割未満	3年	4年	5年	6年																																	
R 3	21.3	20.7	6.7	15.8	4教科																																
R 4	17.4	10.4	10.3	4.5	4教科																																
R 5	24.2	8.42	19.3	28.4	4教科																																
R 6	5.7	12.9	29.5	37	4教科																																
R 7	27.3	8.8	38.4	20	4教科																																

② 小学校学力経年調査における国・算正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も0.5ポイント増加させる。

2割以上	3年	4年	5年	6年	
R 3	23.4	13.6	26.7	18.4	4教科
R 4	26.1	31.3	10.3	25.0	4教科
R 5	30.3	43.5	29.4	3.4	4教科
R 6	45.7	29.0	31.4	21.7	4教科
R 7	27.3	32.4	22.6	25.0	4教科

③ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を85%以上にする。
(R 4 ; 74.3% R 5 ; 85.7% R 6 ; 83.0% R 7 ; 85.6%)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力向上をめざし、校内研修(メンター研修を含む)を企画し、計画的に実施する。 ・公開授業を年に2回以上実施し「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。(R 6 ; 72.3%)</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力向上の取組を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かけあし週間」や「なわとび週間」などを実施し、学習カードを活用することで、児童の学習意欲を高められるようにする。 <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。(R 6 ; 83%)</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>健康教育・食育を推進し、望ましい食生活や健康的な生活習慣を心がけられるようにする。</p> <p>指標</p> <p>① 「手洗いがんばり週間」を実施し、「達成できた」とする児童の前期と後期の年2回分総合平均を92%以上にする。</p> <p>② 栄養指導を年2回実施し、毎日の給食において、児童自らが食べられる量を調整できるよう促し、完食できるようにする。年2回アンケートを実施し、完食についての意識の向上を図る。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①】

小学校学力経年調査における「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合は 67.3%で目標の数値を下回った。一方、後期児童アンケートの「話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできている」の項目では、肯定的に回答した児童の割合は 82.5%であった。児童アンケートは全学年を対象としているのに対し、経年調査は3年生から6年生を対象している。そのため特に、高学年児童に対する学習への働きかけを充実させる必要があると考える。

【取組内容②】

「かけ足週間」や「なわとび週間」などの取り組みを計画通りに実施し、児童が楽しみながら体を動かす機会にすることができた。特に、学習カードを活用した取り組みは、記録を更新するという達成感を引き出し、休み時間等に自主的な練習を促す機会となった。また、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合が 85.6%と目標通り達成することができた。

【取組内容③】

6月と12月に「手洗いがんばり週間」を実施した。アンケートで「達成した」と回答した児童は 92.8%（6月）、92.7%（12月）であった。目標である「達成できた」とする児童の前期と後期の年2回分総合平均数値目標を達成することができた。保健だよりでの順位の提示や上位の学級へ賞状を渡すなどの工夫により、「手洗いがんばり週間」をきっかけとして手洗いの大切さや健康に対する意識向上を図ることができた。各学年2回栄養指導を実施した。授業を通して児童は栄養や食に関する知識を学ぶことができた。アンケートでは「栄養バランスのよい食事をとることは大切だと思いますか」の項目において、肯定的な回答が6月は94.3%であったが2月は97.9%と上昇した。栄養指導や日々の給食時間における指導が反映されていると考えられる。また、「給食の時間は好きですか」の項目において肯定的な回答が6月は91.1%であったが2月は86.9%となったが、「苦手なものも食べようとする」という項目では、肯定的な回答が6月64.3%、2月は82.8%となっており、自分の食べられる量を考えながら給食を完食しようという様子が見られた。

次年度への改善点

【取組内容①】

3年間の校内研修や公開授業を通して、友だちの考えに触れ、自分の考えを広げることへの抵抗感は軽減されてきたものと捉えている。一方で、経年調査の結果から、課題解決に向けて自ら考え主体的に取り組むことに課題を感じている児童が一定数いることが明らかになった。今後は、一人でじっくり考える時間や、自分の考えと向き合う時間の確保を図る必要がある。また、校内研修やメンター研修を継続し、教師が児童の実態に応じた適切な課題設定を行えるよう、指導力の向上を図っていく。児童が自ら学びを意識的に振り返り、深い学びへと繋げていく授業づくりを推進することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざしていく。

【取組内容②】

運動委員会の児童を通して、運動や体を動かす遊びの楽しさを伝える取組や休み時間等に実践可能な遊びの紹介などを行い、児童相互の関わりを通して運動への意欲向上を図る。また、体育科指導の質を高めるために、校内研修を計画的に実施し、児童の「運動が好き」という意識を体力向上及び運動習慣の定着へと結びつけていく。

【取組内容③】

進んで自分から手洗いをする習慣ができるように、今後も継続した取組が必要である。取組内容としては、日ごろから児童への声掛けを行うとともに、「手洗いがんばり週間」の取り組みを実施する。また、児童同士で健康に対する意識の向上を図るため、健康・給食委員会の活動を工夫し、充実させていく。

児童が苦手な食べものに挑戦したり、食べられる量の調整をしたりするための給食時間の確保や食物アレルギー対応等、教職員の共通認識のうえで給食指導を実施していく。

また、児童が栄養バランスを考えて自らの食べられる量を調整できる力を育てるために、年2回の栄養指導の内容について給食時間を活用して振り返ることで、望ましい食習慣を身に付けられるように取組を進めていく。

大阪市立大隅西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <p>① ICTの活用に関する目標を設定する。 ② デジタル教材を活用した学習を週1回実施する。 ③ 学習者用端末を活用した家庭学習を年に1回程度実施する。 ④ 協働学習支援ツールを用いた学習を学期に1回程度実施する。 ⑤ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。 ⑥ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を20%以上にする。 ⑦ ゆとりの日を週に1回設定・実施する。 ⑧ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を20%以上にする。 ⑨ 児童の8割以上が、学習者端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超えるようにする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① ICTを活用した授業を週に3回以上行う。 ② 始業式、終業式の実施日の弾力的運用を行う。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を効果的に活用した教育活動の実践に取り組む。 ・デジタル教材や一人一台学習者用端末を用いた取り組みを週に3回以上実施する。 	C
<p>指標</p> <p>① 校内アンケートにおける「学習者用端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の働き方改革を進め、労働環境を改善し、より効果的な働き方をめざす。 ・ゆとりの日を週に1回設定し、時間外勤務時間を削減する。 	C
<p>指標</p> <p>① 年次有給休暇を年間10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。 ② 「ゆとりの日」を週に1回設定し、17時30分までに退勤する教職員の割合を85%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①】

校内アンケートの結果では、82%であり 85%の目標値には届かなかった。端末を使用している場面は日常的にみられるものの、指導者の指示に従って使用しているという意識が強く、「自分で学習することができる」という自己認識には十分に結びついていない可能性がある。また、低学年や特別支援学級在籍の児童についても指導及び支援の在り方と使用の範囲を整理する必要がある。さらに、学級によって使用頻度や活用場面に差がみられる。学校全体としての共通実践が十分に確立されていないことが、結果に影響している可能性がある。

【取組内容②】

年次有給休暇については、1月末時点での取得率が 74%であり、現時点では目標の数値に達していない。しかし、後期にかけて取得率は向上しており、有給取得の意識は高まっていると考えられる。年度末までの期間を踏まえると、昨年度の実績から目標達成の可能性があると見込まれる。

「ゆとりの日」については、達成率 67%であり、目標に達していない。中間評価時と比較すると、趣旨や取組に対する周知は進んだものの、取得率の向上という点では大きな変化は見られなかった。業務や学校行事が集中する時期があることも一つの要因であると考えられるが、計画的な業務の遂行や時間管理の在り方については、今後も改善の余地がある。

次年度への改善点

【取組内容①】

目標値には届かなかったものの、82%という結果は一定の成果と捉えることができる。一方で、「主体的に活用している」という児童の実感を高めるためには、

- ① どこまでできていれば自分で学習することができるのかを明確にすること。
- ② 各教科のどの場面で効果的に活用できるのかを具体化すること。
- ③ 教職員のニーズにあった ICT 研修会を実施すること。
- ④ 音読の宿題や連絡帳の活用など学校全体で取り組む共通実践に取り組むこと。

といったことが不可欠である。次年度は「端末を使っている」状態から「学びを自ら進めるためのツールとして使用している」状態への質的向上をめざして取り組んでいく必要がある。

【取組内容②】

年間を通した業務の見直しを明確にし、計画的な取得および退勤時間を守ることを推進する必要がある。

また、学年や学校全体の業務調整を行い、チーム学年の特性を生かした分業も視野に入れて取り組んでいきたい。加えて緊急性のない場合は、急な会議の設定を控えるなど、一人ひとりが、見通しを持って業務を進めていくことも重要である。